

ここが聞きたい

# 一般質問

今定例会の一般質問は、23人の議員が登壇し、行政運営について市長及び教育委員長等の考えを質しました。

質問、答弁の要旨を掲載します。（文責は質問議員）

○土地開発公社について  
過疎地域自立促進計画について



さとう いくお夫  
佐藤 郁夫

**質問** 土地開発公社の負債（借入金）は、97億5800万円とたいへん厳しい経営内容となっております。平成22年度～31年度の10年間の「経営健全化計画」が策定されました。この計画に基づく公有地の取得、宅地造成地の売却方策と貸付地について伺います。

**市長** 公有地については、市としての活用方策を検討し、できるだけ計画に沿って取得いたします。宅地造成地の売却は、宅建業者等との連携も含め、民間活力の活用や姉妹ニュータウン等大規模な宅地造成地には商業施設の導入をはかる等、売却に努力してまいります。貸付地については借受者と協議しながらできるだけ使用料を徴収し、歳入確保に努力いたします。

**質問** 江刺区が平成22年度～27年度の6年間過疎地域に指定されました。過疎計画の基本目標、重点事業と奥州市総合計画、新市建設計画、江刺区コミュニティ計画と

の整合性について伺います。

**市長** 江刺地域の将来像として「個性が輝き、産業の力みなる健康で文化的なまちづくり」を基本に「産業の振興」「生活環境の整備」を始め8項目の具体項目で計画を推進してまいります。各種計画との整合性については、平成24年度に総合計画が策定されることから、平成22・23年度は現在の総合計画等を基本とし、平成24年度からは総合計画と併せて過疎計画を策定する二段階方式で考えております。江刺地区コミュニティ計画との整合性については、地域要望をできるだけ反映させ計画を策定してまいります。



○シックスクール症候群の発症問題について



こん の ひろふみ  
今野 裕文

**質問** 胆沢第一小学校大規模改造工事で17名がシックスクール症候群を発症し、うち3名が化学物質過敏症、4名が化学物質過敏症予備軍とされています。化学物質過敏症の児童は、農薬散布や水田の畦畔の草焼き煙等を避け避難生活を強いられ、学校生活に耐えられない状況です。状態が悪い時は、酸素を吸入することが必要になっておりたいへんな負担になっています。場合によっては一生改善されないことも想定され、たいへん事態は深刻だと思えます。

**市長** ①シックスクール症候群の発症原因と責任の所在について、②問題発生後の対応の遅れについて、③地域住民との情報の共有化をはかる対策について、④シックスクール症候群等を発症した児童に対する救済策について伺います。

①子どもたちが学校に通う中で、工事を進めたことに、工事発注者として市に責任があります。